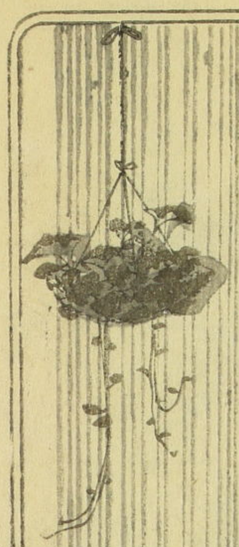
兒雷也豪傑譚三十編

外題

上

へ13
3811
34

門 へ13
號 3811
巻 34



柳下亭種員作
一龍斎國筆画
同 泉市梓

世に紛々たるものは天狗の説なるべし諸書に載たる二箇を云んに
韓退之が辨州乱の詩に天狗地に墮て声雷の如とあれば李時珍が
本草には天狗は形鳥のごとく見え山海經には天門山に赤犬ありて天狗と号
背の高數丈眼の光天に飛流して星となると彼天文志三才圖會などに
在天狗星は是なるべし欤亦唐山南方の越州に禽あつて名を治鳥と称呼深山
に栖樹を穿て巣を為過て此を毀壊ば即刻に舍を燒亡とのべり此倭國の天狗に
髣髴と僅に挙しは兒雷也が望月右内親子の者乃募戀を避んため天狗の化して
人界に漫遊ありと欺條下を綴つて不圖前文にいふ雷のごとくと天狗を賦したる詩を思
いで表題に蒙せし雷の字に因て天狗の説を序文に筆記

安政四年丁巳歳端月

柳下亭種員

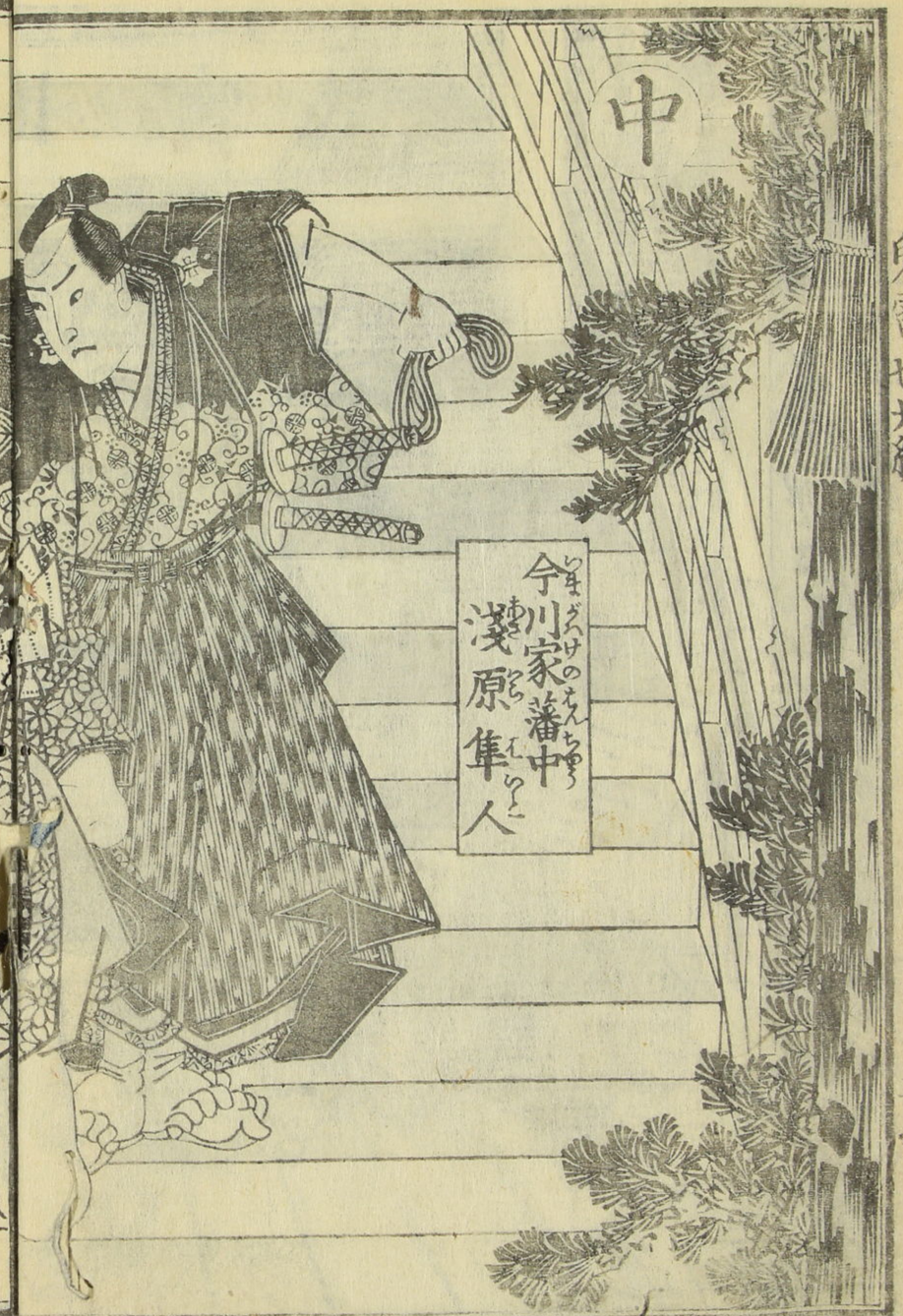
浅間宮

上

尾形周馬寛行

西上太良吾

長吏非田治


中
今川家藩中
淺原隼人

遊君岸川

下
鰐淵現藤太

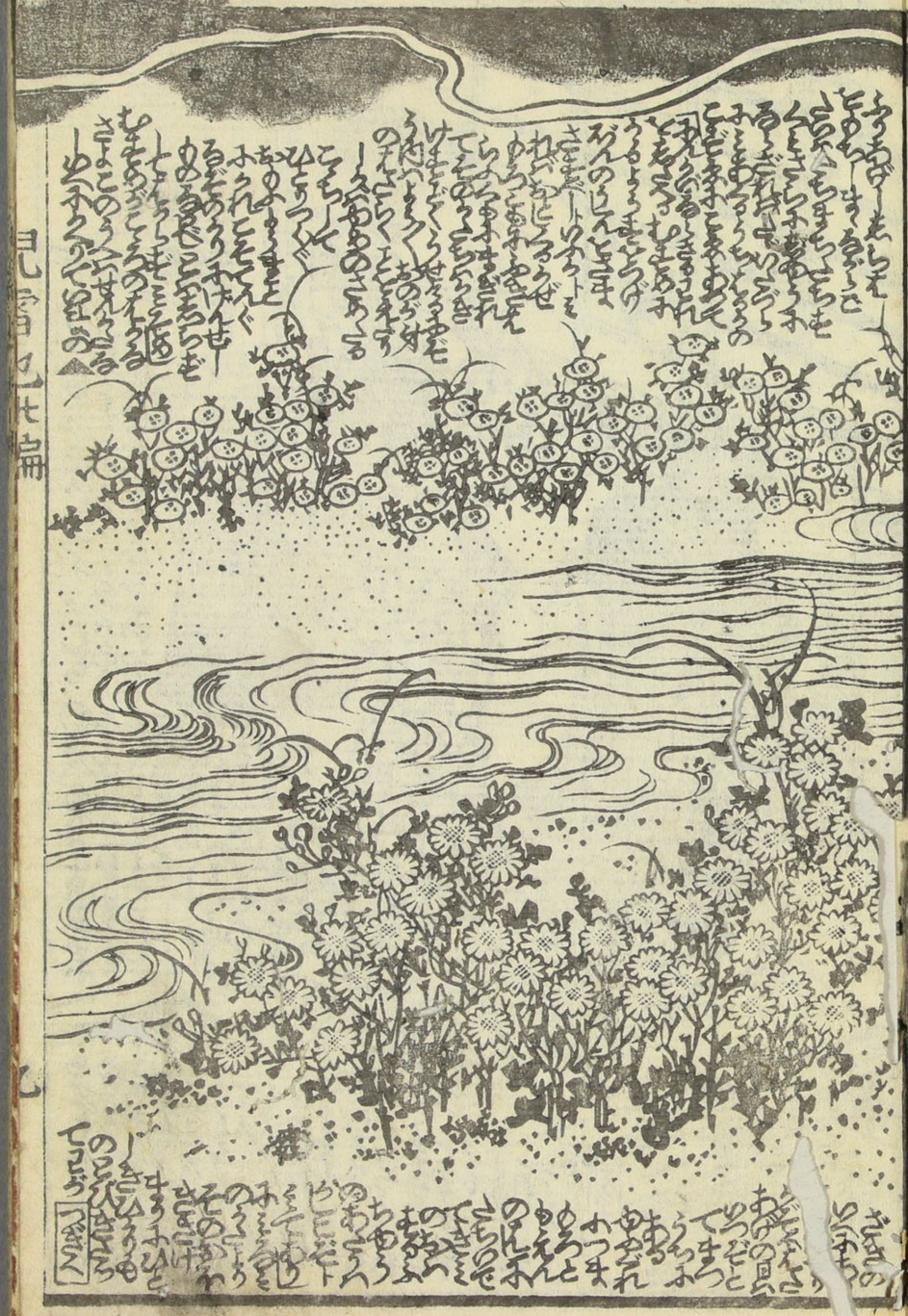
右
兒

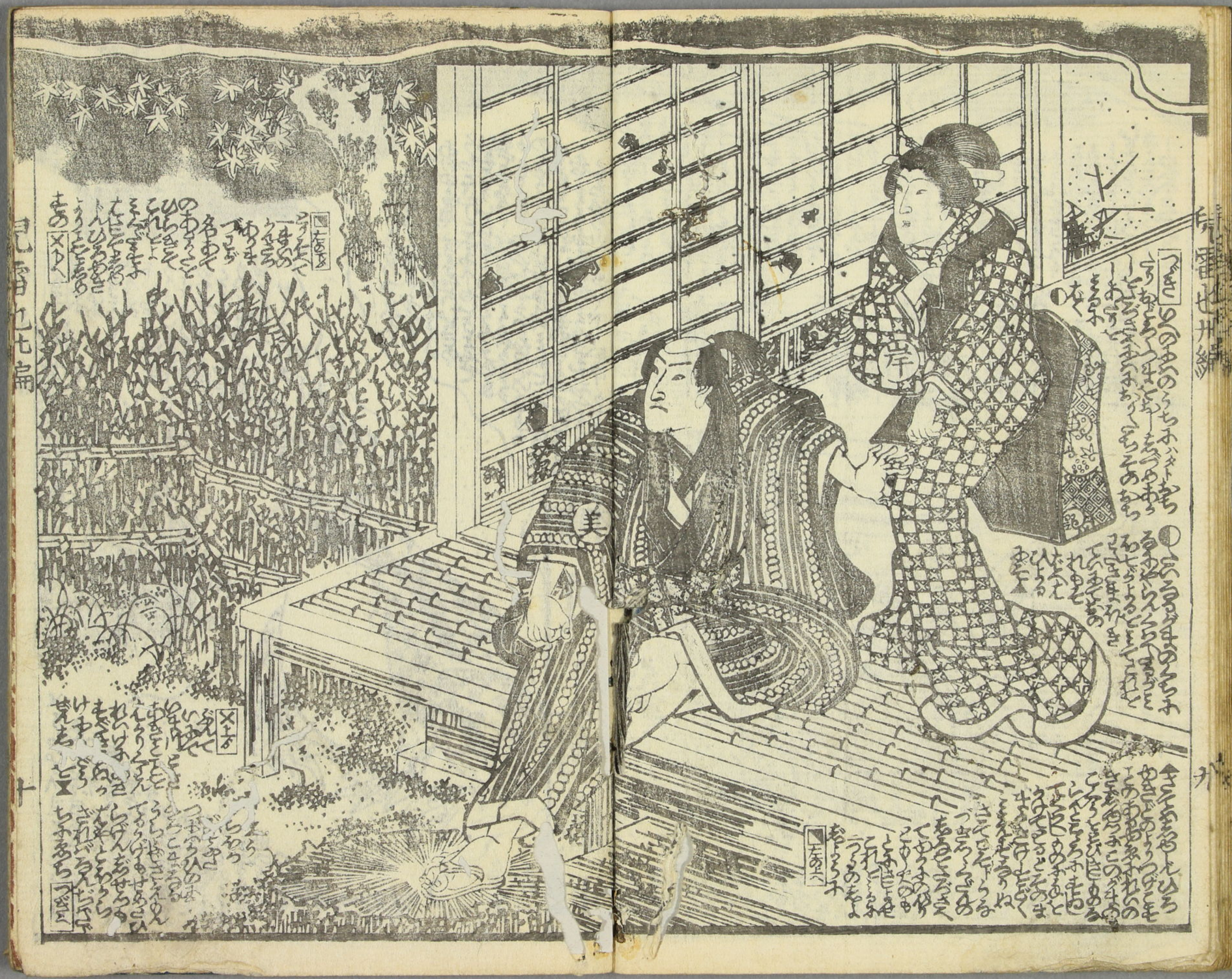
兒

右

右
兒

右




岸
美

安政四丁巳新板目録

假名反古 一休草紙 柳亭種員作 九編 十編 出板
一雄齋國輝画

女郎花五色石臺 同作 七編 八編 九編
國盛画

忠臣貞婦 いろは文庫 柳煙亭種久作 種員校合 豊國助筆 一竜齋國盛画 玄魚補助
初編 附録養端別本一冊 同二編 三編出板

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版

柳下亭種員作

歌川國盛画

芝神明前

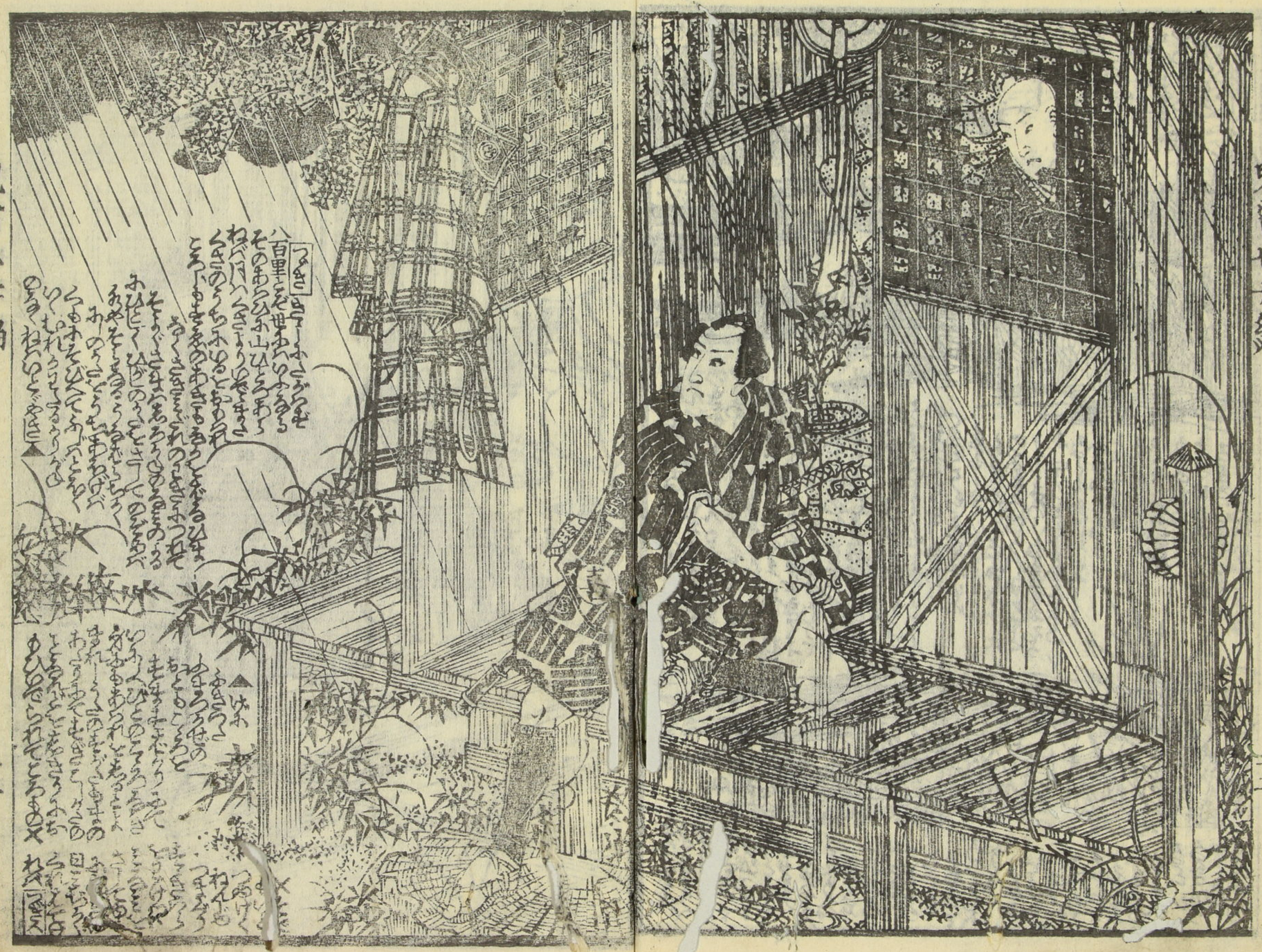
甘泉堂板

下

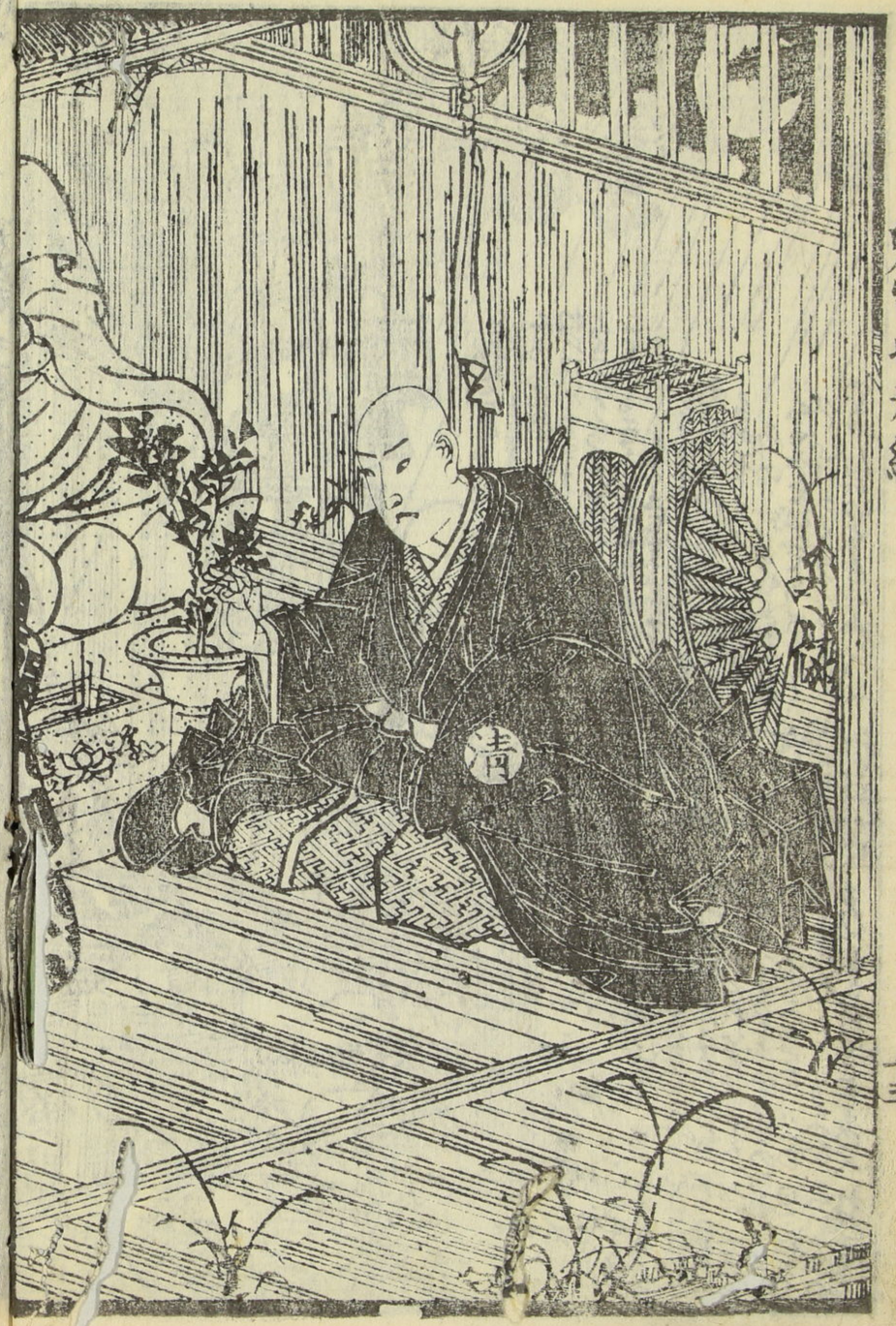
三
八
二の巻のつぎ
岸
美

児雷也豪
俳諧
第三十篇
作者
挿去種員
畫工
歌川國貞
版度
水澤子

美


つぎ
八百里とぞ世ぶいふなる
そのあらひふ山ひとろあら
ねバ月ハくきよりやまさ
くきのうちふゆるとおもられ
ところもまきのあきもあらとぞるひま
あくさきこゝぞれのうきさふつれて
そうぐさまハあろうものあるこのうる
ふひとくひぢのうことさしてのぞめバ
あやそうあるうるぞらちらく
ふのうことうもあわげバ
くもふそびへてふぶとなく
いくむれうしてるうりぶ
のうきねいとぞやきに
▲ゆふ
ふきうこ
みまろうせの
おともこうろと
まきまきまだかりこて
いふくひとのてろうるき
かおもあられとあるとよ
まれしくこのまぐこまの
あうりあそむぎこしくこの
ことあるとしあきうふち
もひのでられてとろもの×

つぎへ
喜


清

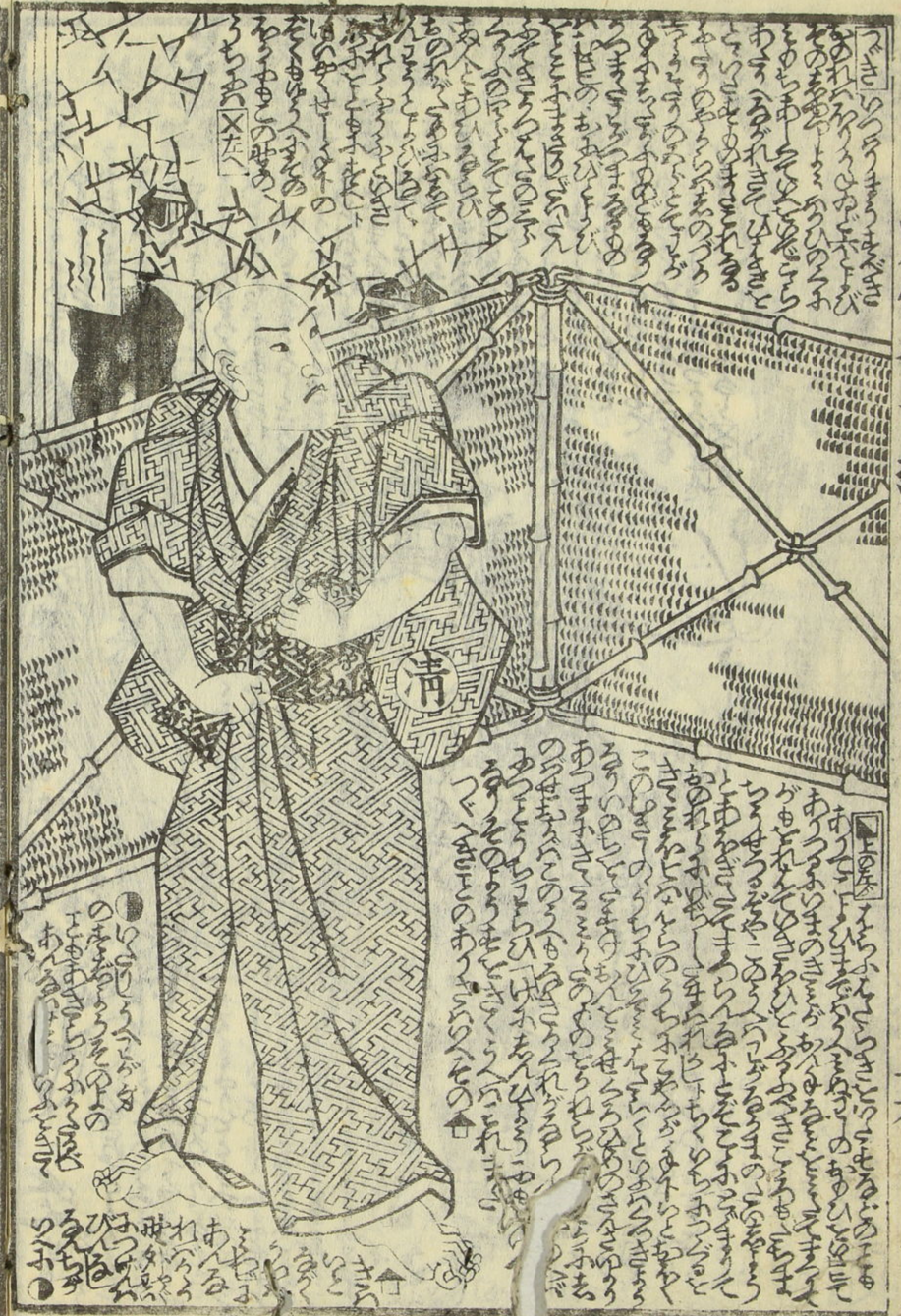
清
喜
鬼

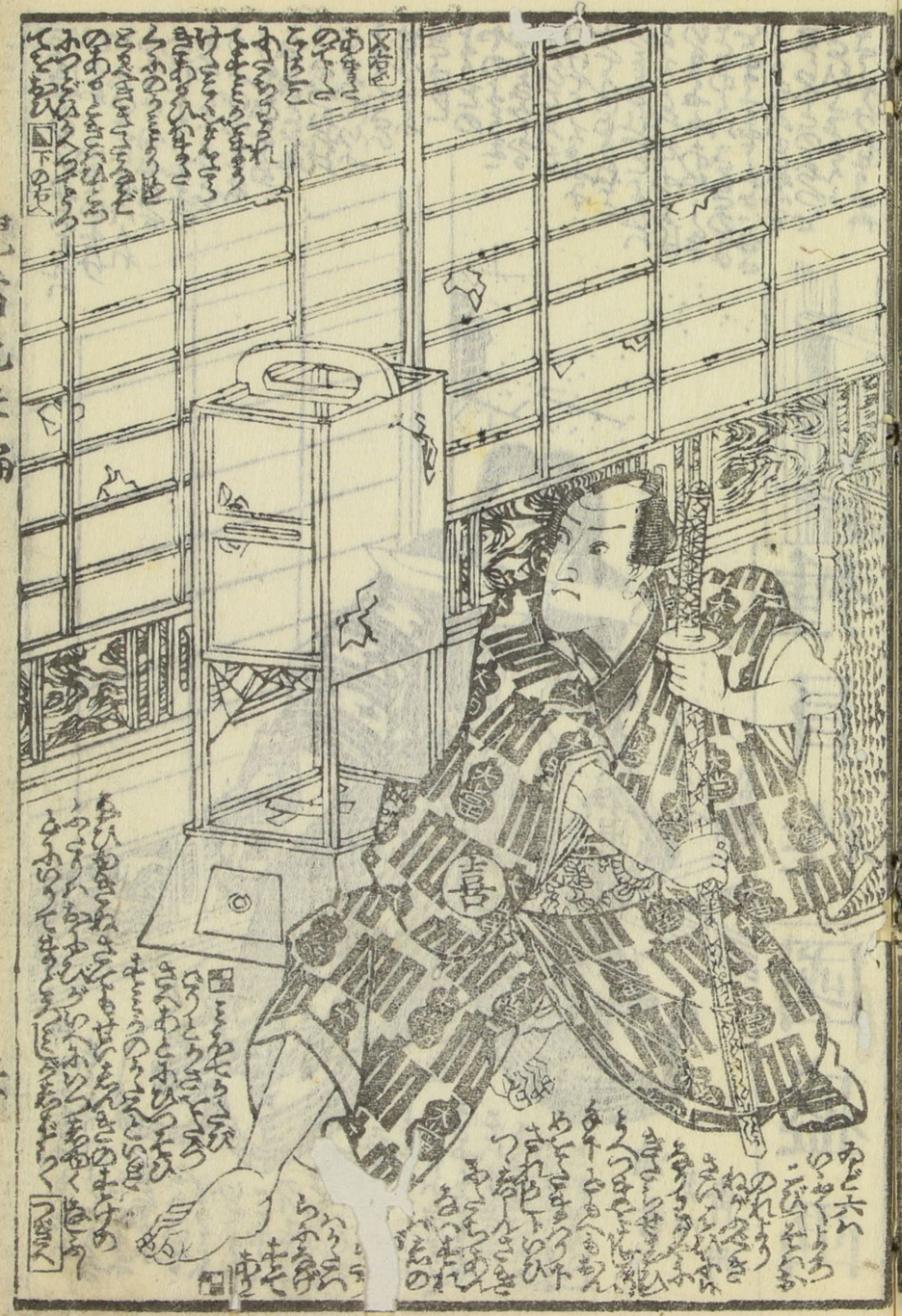
鬼

栗
田

美
且
條

井


青


喜

淨書 箕田青洲

種員作 國盛画

嘉永六年癸丑孟陬發市標目

兒雷也豪傑譚 廿一篇 廿二篇 廿三篇 柳下亭種員作 一雄齋國輝画

笠亭仙果作 今業平昔面影 六篇 七篇 一猛齋芳虎画

綠亭川柳作 祥瑞白菊物語 五篇 六篇 錦朝樓芳虎画

新編金瓶梅全輯 自初編至十編 曲亭馬琴翁作 大尾 一陽齋豊國画

書肆 甘泉堂芝神明前 和泉屋市兵衛版